
真友

カツオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真 友

【Zコード】

Z0901A

【作者名】

カツオ

【あらすじ】

料理人五反田とテムテムが、亘の所にやってくるまでの物語

(前書き)

この小説を見る前に必ず友を見てください！お願いしますー・カツオでした。

「」は天皇が住んでいた所（すいません…よくわかりません…）。

調理所で伊勢エビを存分に使つてゐる人がいた。

彼の名は五反田剛。

日本で2番目に料理がうまい。

五反田の料理は阿藤快也山下真一も梅宮辰男も舌づつみだ。

得意料理はカニの和風グラタンとバーラとチヨコの東京タワーだ。

特に東京タワーは女性と子供に人気があつて、グリコと契約して、「ショフ五反田のバーチョコ東京タワー」という名で大人気だ。

定価500円。

会見では、こんな風になつていた。

「」のアイスのおいしい所は？

「冷たい所」

「」

「なぜ東京タワーにしたんですか？」

「忘れた。てかオレ、エッフェル塔の方が好き」

「」

「なぜグリコと契約したんですか？」

「」

「あのマーク、かつこいいから」

会見終了。

料理人の中で一番下手なのに偉そうな料理人に叩かれた。
「人生で一度の会見に何やつてるんだ」

五反田は無視してカニを煮ていた。

「別に。オレ料理は上手いけど、バカだから」

カニチャーハンを作ってる。

「もうおまえ出でけ」

「あっそーあーあー愛子様はオレの離乳食好きなのになあー！」

すると、ほかの料理人から小声でいろんなことを言われて、偉
そうな料理人は、

「おまえは、料理だけ作ればいい」

といつて料理を作り始めた。

五反田は料理の手が止まつた。

今日も愛子様は五反田の作ったほうれん草の離乳食をおいしそ
うに食つている。

それだけで五反田はうれしくなる。

でも、あのこんにちは言葉。あれにはいらついた。

「オレはお料理口ボットか…」

次の日、天皇の秘書らが集まつて何かしている。

そう、防犯小型ロボットができたのだ。

「これはいい。ハムスターは愛子様もお好きですし、喋れるのがい

い

秘書が防犯小型ロボットに近づけて
「こんにちは」
と言つた。すると、
「こんにちは」

と言つてきた。

秘書たちは騒いでいる。

「す」「い。す」「かぎるー。」これは最高の出来だー。」

「全員に配れ！」

五反田が自分の部屋に戻ると、太ったハムスターが部屋に置いてあつた。

「なんだこれ

！――！」

「はあ？ オレは防犯小型ロボットの……」

「ロボットの……」

「名前はまだない」

「一人はしらけた。」

「そうだ！ おまえの名前はテムテムだ！」

テムテムは引いた。それだけでこけた。

「いとーー！」

五反田はなんか引いた。

「なんだよー！痛てーしどん引きもされたし、最悪だよもーうーひゅう
ひゅーひゅー！」

五反田はないうつこた。

「ははははーなんかかわいいから泣いてるーははーーだ
せーーはははー！」

「うあひゅー！」

次の日、愛子様はなんかテムテムだけ気に入ってなくていじめ
て笑っていた。

「やめてーぐおんー！」

愛子様、爆笑！

今日も離乳食は五反田が作っている。

愛子様は喜んで口に入れた。すると、愛子様は吐いた。その後、倒
れた。

部屋中大騒ぎになつた。すぐ救急車を呼んだから一命を取り留
めた。

すぐ五反田は疑われた。また偉そつな料理人は五反田を殴つた。

「おいーなんでオレを疑うんだー！」

「おまえはバカか！普通作った奴が疑われるだろー！」

「でもオレはやっていないー！」

「いいやー！オレは絶対五反田がやつているー！警察につきだしてやるー！」

五反田は偉そうな料理人をつきとばして出ていった。

その後五反田は雅子様の所に来た。

雅子様はニコッとした。

五反田はやっぱり雅子様は違うとホッとしたが、雅子様は五反田にこう言った。

「なんで、まだここにいるの？」

一言だけだが、五反田は雅子様が何言つてるか分かつた。

そして、ショックが雨のように降り注いだ。

雅子様は卑劣ではない。

愛する娘を病院送りにして、しかも原因是離乳食。

そして、それを作ったのは五反田。

雅子様も考える。むしろ、娘を守るいい母親だ。

五反田は自分の部屋に戻った。

部屋にいるのはテムテムだけだ。

五反田は膝まづいた。そして泣いた。

テムテムは心配している。

「どうしたあ、五反田」

「オレはここに最初からいちゃだめな人だったかもしれない。それを運命がこういう展開をしてくれた。むしろ、感謝している。テムテム出てこよう当ではある」

そうして、五反田はテムテムとテレビ機能付きケータイと料理道具と金を持って出ていった。

「昨夜、愛子様が食中毒で入院しました。えっと、原因は離乳食で

離乳食を作った料理人が行方不明になつてゐるので、現在行方を追つています」

一週間たつて。

警察の所に一人の男がやつてきた。

「すいません！愛子様の食中毒は私が原因です！私より料理が上手いから腹がたつたんです」

偉そうな料理人だつた。

まだ、五反田は疑いがはれたことは知らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0901a/>

真友

2010年10月11日00時13分発行